

5月11日 (日) ヨハネ 20章	「イエスが、『マリア』と言われると、彼女は振り向いて、ヘブライ語で、『ラボニ』と言った。『先生』という意味である」(16節)。週の初めの日、朝暗いうちにマリアは墓に行き、外で泣いていると、主と出会うが、イエスだと分からない。しかし、主が『マリア』と自分の名を呼びかける声に主イエスだと確信した。これは大いなる喜びだ。
12日 (月) ヨハネ 21章	「シモン・ペトロが、『わたしは漁に行く』と言うと、彼らは、『わたしたちも一緒に行こう』と言った」(3節)。復活した主は40日間地上におられたが、弟子たちは主がいない日が多く不安で、ペトロたちは元の仕事、漁をする事に戻ろうとした。そこに主は現れ、彼らに優しく対応された。主はペトロに福音宣教者としての働きを託された。
13日 (火) 使徒 1章	「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる」(8節)。弟子たちは「父の約束されたものを待て」という言葉に「イスラエルのために国を建て直してくれる」と勘違いした。主は彼らに聖霊が降るとは「主の証人」となる事を教えられた。
14日 (水) 使徒 2章	「ペトロの言葉を受け入れた人々はバプテスマを受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった」(41節)。「主イエスを知らない」と言ったペトロが、聖霊に満たされて声を張り上げて主イエスを証した。「神はイエスを復活させられた。わたしたちは皆、そのことの証人です」と、この力強い証しを聞いて三千人もの人が加わり教会が誕生した。

15日 (木) 使徒 3章	「あなたがたは、命への導き手である方を殺してしまいましたが、神はこの方を死者の中から復活させてくださいました。わたしたちは、このことの証人です」(15節)。足の不自由な人が癒やされたのを見て神殿に集まってきた群衆に向けてのペトロの説教。無知のために「命の導き手である方」を殺してしまった群衆に、罪を悔い改めて神に立ち帰れと語った。
16日 (金) 使徒 4章	「二人を呼び戻し、決してイエスの名によって話したり、教えたりしないようにと命令した」(18節)。議員や長老、律法学者たちはペトロたちが主イエスの名によって民衆にイエスの復活を宣べ伝え、多くの者がそれを信じているのにいらだち、語った言葉。ペトロはこの脅しにもめげず、「神に従わないわけにはいかない」と宣言した。
17日 (土) 使徒 5章	「それで使徒たちは、イエスの名のために辱めを受けるほどの者にされたことを喜び、最高法院から出て行き、毎日、神殿の境内や家々で絶えず教え、メシア・イエスについて福音を告げ知らせていた」(41－42節)。最高法院からの脅しさえ喜びに変えられた彼らの信仰が、力強く主イエスを伝えることとなった。私たちもそうなりたい。
18日 (日) 使徒 6章	「しかし、彼(ステファノ)が知恵と“霊”とによって語るので、齒が立たなかった」(10節)。ステファノに齒が立たず、憎悪にかられた人々は偽証人を立てて最高法院に突き出した。主イエスの時と同じである。「齒が立たない自分」を素直に認め、神の前に小さくされるとは何と難しいことだろう。主よ、あなたの“霊”の働きの前に小さくされる信仰を与えてください。